



## 佐々木中学校だより

TEL : 0254-27-2505

E-mail : [sasaki-jhs@inet-shibata.or.jp](mailto:sasaki-jhs@inet-shibata.or.jp)



教育目標  
よく考え、進んで  
実践する生徒

### 自分たちの地域の特色を理解し、備える ～全校防災授業

2月6日(金)に「ふるさと佐々木防災教育」の一環として、11月に引き続き、全校防災授業を実施しました。今回のテーマは「雪害」です。「新潟県防災教育プログラム【雪災害編】」を活用して、新潟県で起こりうる雪害にはどのようなものがあるか、その要因や対策を学年縦割班で考え、意見を交流しました。「大雪の日にはなるべく外出しない」「食材をストックしておく」「公民館など人が集まるところは地域の人と協力して雪かきをする」など様々な意見が出されました。



#### 防災授業「振り返り」より 生徒の感想

- 雪害が起きた時、自分で対策をとって気をつけることが大切だと学びました。例えば、道路をわたる時、左右をよく確認するようにしたいです。雪は身近にあるので、対策をして冬を乗り越えるようにしたいです。  
[3年生]
- (今年度は)新潟県が全国で一番、雪による死者が多いと聞きました。雪が危ないと思って除雪しても、除雪中に事故が起こる可能性もあるので難しいと思いました。今日学んだことを忘れずに、外にいる時は周りをよく見て雪害に気をつけたいです。  
[2年生]
- 今日の防災授業で、雪が降るといつもの倍、気をつけて過ごさないといけないと思ったし、地域の危険なところを把握して、家族や地域で共有することが大切だと思いました。  
[1年生]

### 食文化を継承し、ふるさとへの愛と誇りを育む ～小煮物づくり

「しばたの心継承プロジェクト」の活動の一環として、1月26日(月)に1学年が小煮物づくりの調理実習を実施しました。「新発田のよさやそこに携わる人の思いを知り、ふるさとへの愛着と誇りを育む」ことがねらいです。当日は4名の食生活改善推進委員の皆様からご指導いただきました。1年生は対話と体験を通して新発田の食文化に対する理解を深めていました。



#### 1学年小煮物づくり「振り返り」より 生徒の感想

- 小煮物の具材一つ一つに意味が込められていることが、初めて分かりました。毎回お正月に祖母が作ってくれる小煮物とは全然違う味で、自分の家庭の味が分かりました。食生活改善推進委員の方が、切り方や食材の意味などを細かく教えてくださり、みんなでおいしい小煮物を丁寧に作ることができました。小煮物は思っていたよりも大変でした。祖母はいつも一人で作ってくれているので感謝しなければならないと思いました。私も中3までには一人で作れるようになりたいです。  
[1年生]
- 具材は厚く切りすぎてしまうと火が通らなくて、固くなることが分かりました。しいたけを厚く切りすぎてしまったので、汁全体がしいたけ味になってしまいました。食生活改善推進委員の方が切り方のアドバイスをしてくださったので、ごぼうを上手く切ることができました。おいしかったです。  
[1年生]

## 多様な捉え方を交流する ～全校朝会・校長講話の取組紹介

佐々木中学校では毎月1回、全校朝会を実施しています。校歌斉唱や生徒会長の言葉とともに校長が話す機会も設定されています。今年度は学期に1回ずつ寓話(動物などを擬人化して登場させた、教訓を含めた物語)や偉人の逸話を紹介し、その感想を掲示して全校で交流する場を設けました。学年の壁を越えて多様な意見にふれ、物事を多面的・多角的に捉えてほしいと思ったからです。6月はイソップ物語の「3人のレンガ職人」、11月はジョージ・ワシントンの「柱についた釘の穴の傷」、3学期の今回、2月2日(月)の生徒朝会では「カエルの登山」という話を紹介しました[出典：戸田智弘「ものの見方が変わる 座右の寓話」ディスカヴァー携書]。

多くの寓話は、話の最後に短い教訓が添えられますが、どうしても押し付けがましくなりがちです。そこで「教訓」の部分をあえてカットし、自分なりに捉えた「教訓」をコメントとして書いてもらえるようにしました。教職員の感想も含めて、他の人の意見に共感したり、「そういう捉え方もあるのだな」と自分とは違う視点に気付いたりしてもらえたら嬉しいです。



- 努力した人には良いことが待っているのは、本当なのかなと思いました。
- マイナスな発言をすると、できることもできなくなるから、マイナスな言葉ではなくプラスの言葉を発したほうが、難しいことも成し遂げられるということを伝えたいのかなと思った。
- 「できない」という他人の意見に流される必要はないと思いました。自分を信じて進んでいきたいです。
- 自分の限界は他人が決めるものではなく、自分で決めるべきだと思います。辛い時は他からの情報を都合よく、楽になれる方法を選ぶのが「人」ですが、気を付けて過ごさなければ、と思います。
- 成功したカエルは耳がもともと聞こえなくて、やめる選択がなかったから、諦めなければ、いけることが伝わった。
- 周りの意見に流されず、自分のことを信じて頑張れば、どんな困難なことも達成できるということが分かりました。
- 自分で決めたことは、周りに何か言われたとしても、最後までやり切ることが大切だと思います。
- 人の言うことをすぐ信じることで、自分で出来るはずのことも諦めてしまうことがあるのだな、と思いました。
- 1匹のカエルが頂上まで登れた理由は、耳が聞こえなかったからと聞いて少し驚きました。勝手にみんなが「聞こえている」と決めつけていたので、決めつけてしまうことを直したいと思いました。
- 物事を進める時は「情報を集めてから」というのが一般的。しかし、「情報がないからこそ成功に至る場合がある。」人生、何が辛いのか分かりませんね。

### 全校のみんなの意見



### 2月4日(水) 民生委員児童委員挨拶運動

毎月1回、佐々木地区民生委員・児童委員の5名の皆様が、生徒玄関前であいさつ運動を行ってくださっています。生徒たちをいつも温かい目で見守ってくださり、ありがとうございます。

### 2月5日(木)・6日(金) 3学期期末テスト

今年度最後の定期テストを実施しました。どの生徒も「今年度で一番良い成績を出したい」という思いで、昼休みに勉強したり家庭学習に力を入れたりなどして、頑張っていました。



### 集団行動「巴」引継式練習

2月13日(金)の引継式に向けて、1月末から計5回の練習を行いました。佐々木中の伝統を3年生から1、2年生にしっかりと引き継ぎ、全校の協調性と団結力を高めたいです。